

参加費無料
先着200名
要申し込み

住友生命福祉文化財団 PRESENTS FORUM

ケアとテクノロジー

生と死の現場が見つめる技術のありよう



基調講演 若林 恵 氏

日時 2019年2月2日(土)
11:30~13:30 **最新機器の展示会 (デモ体験)**
14:00~17:30 **フォーラム**

受付会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟3階 309
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

主催 一般財団法人住友生命福祉文化財団、一般財団法人たんぽぽの家
後援 渋谷区
協力 公益財団法人テクノエイド協会、川崎市経済労働局 (ウェルフェアイノベーション推進事業)
ファブラボ品川、NPO法人エイブル・アート・ジャパン

最新テクノロジーを五感で体験できる展示会を同時開催
小さなお子様等と一緒にご参加いただけるパブリックビューイングも用意しています

会場アクセス

国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟3階 309

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

- ① 小田急線「参宮橋駅」 徒歩7分
 - ② 東京メトロ「代々木公園駅」 代々木公園方面4番出口 徒歩10分
- 正面から入り、センター棟へお越しください。



主催者紹介

一般財団法人住友生命福祉文化財団

当財団は、昭和35年に住友生命保険相互会社の寄付により財団法人住友生命社会福祉事業団として設立、平成25年4月より一般財団法人住友生命福祉文化財団に移行。社会の福祉及び文化の振興に貢献すべく、予防医学振興事業、福祉事業、音楽文化振興事業を展開しています。

一般財団法人たんぽぽの家 ケアする人のケアプロジェクト

「ケアする人が心身ともに健康であって初めて、他者を気づかう支えあいの社会が実現できる」との考えから、1999年に「ケアする人のケア・サポートシステム研究委員会」を設立。2005年度からケアする家族を支える活動として、全国各地で住友生命福祉文化財団と共催でセミナーを開催しています。

参加申し込み・お問い合わせ

下記の申込内容を、一般財団法人たんぽぽの家まで、FAX、郵送、E-mailでお知らせください。

■お申し込み先・お問い合わせ

ケアする人のケアプロジェクト事務局 (担当: 小林・後安)
〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 一般財団法人たんぽぽの家内
TEL:0742-43-7055 FAX:0742-49-5501
E-mail: carecare@popo.or.jp http://tanpoponoye.org

ウェブサイトからの
お申し込みはこちら



申し込みフォーム FAX:0742-49-5501

必要事項をご記入のうえ、該当する項目にチェックをいれてください。

ふりがな	ご所属 (よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。)	
お名前		
ご住所 (□ご自宅/□勤務先等) 〒		
TEL (□ご自宅/□勤務先等)	FAX (□ご自宅/□勤務先等)	
E-mail (□ご自宅/□勤務先等)		
通信欄 (ご質問・ご要望があればこちらにお書き下さい)		

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ利用させていただきます。
※災害等の理由でプログラムに変更がある場合がありますので、あらかじめご了承ください。
※万が一災害等の理由でフォーラムを中止する場合は、事前にウェブサイトで告知し、メール等で連絡いたします。

ケアの現場は、 テクノロジーに新たな生命をあたえる場所かもしれない。

自分の家庭や職場に、新しい技術がはいつてくるときのワクワク感と、胸がザワザワする違和感。技術が飛躍的に発展しているいま、生と死を身近に感じる医療・看護・介護・子育てといったケアの現場とテクノロジーは、互いがどう関わるかを問われています。人の生老病死を深めていくためにテクノロジーは何ができるのか。本フォーラムは、ケアの現場で積極的にテクノロジーと寄りそう人の考えと活動を学びながら、これからのケアとテクノロジーのありようと関係性について考え語りあいます。みなさまのご参加をお待ちしています。

11:30~
13:30

フォーラム受付
最新機器の展示会（デモ体験）

14:00

主催者あいさつ

14:10~ 15:20

基調講演 人の生き死にとテクノロジー

若林 恵 (黒鳥社 代表、[WIRED] 日本版 元・編集長)

テクノロジーは、効率や利便性が問われ、それがどんな効果をもたらすかという経済的価値を求められます。一方でケアの現場は、人の生や死と深く向きあい、他者を気づかうことを求められます。これまでテクノロジーは経済・産業とともに発展し、医療や福祉とともに挑戦してきました。ここではケアと経済の関係に目をそむけず、これからのケアとテクノロジーの弾力的な関係について考えます。



若林 恵 Profile

世界で最も影響力のあるテクノロジーメディア「WIRED」日本版の元・編集長。現在は、いまの当たり前を疑いあらゆる物事について「別のありようを再想像（Re-Imagine）する」黒鳥社を設立。音楽ジャーナリストとしても活動し、音楽や映画、生活や宇宙、生と死といった人文知の視点からテクノロジーを見つめている。歴史家イヴァン・イリイチの概念「コンヴィヴィアリティ（自立自存）」に影響をうけ、新しいテクノロジーは果たして「自立自存の道具」となるのかを追及。著書『さよなら未来——エディタース・クロニクル2010—2017』



西川 勝 フォーラム・コーディネーター（臨床哲学者） Profile

看護師として精神病院や認知症介護の現場で働きながら哲学を志す。看護実践を臨床哲学によって振り返ることで、ケアの現場を言葉で紡ぐ。著書『ためらいの看護 —臨床日誌から—』は、看護師としての20年以上の経験を踏まえて、当事者として生の危機と終末期にためらいつつ「人に寄り添う」「人間の尊厳」「愛」とは何かを綴っている。

15:20~
16:00

事例報告1 香りから考えるケアのあり方

藤田 修二 (ソニー株式会社 Startup Acceleration部OE事業室)
多田 耕三 (株式会社グリーンメディック 代表取締役、管理薬剤師)

持ち運びができるパーソナルなアロマディフューザー「AROMASTIC（アロマスティック）」。パニックになりやすい人が楽になるからとお守り代わりに持ち歩き、がんサバイバーが放射線治療に行くたびに使用されています。医療と香りの連携が進んでいるなかで、介護や看護などケアする人のケアにも注目されています。



先端的な側面とアナログな側面の両面から考えながら、新しい薬局の在りかた、これからの地域ケアの在りようを模索している現場でAROMASTICが活用されています。なぜ活用しているのか。単に負担軽減や効率化だけではなく、その先にある「人にとってケアとは何か」「ケアにとって大切なことは何か」など、その先に見据えている実践と哲学を学び考えます。



16:00~
16:30

事例報告2 生のありたい姿と科学的介護

吉岡 由宇 (社会福祉法人福智会 特別顧問、Abstract合同会社 代表社員)

結婚を機に、特別養護老人ホームの仕事に転身した物理学者。介護、医療、保育なども含め、はたらく現場と情報工学の間をつなげようとしています。食事や入浴など利用者のケアの記録を、職員が携帯端末を使って簡単に入力できるシステムを開発。全国の福祉関係者の間でも注目を集める新しい“科学的介護”。省力化だけでなく、介護のあるべき姿をイメージしながら技術・知識を活かした仕組みづくりを考えます。



16:30~
17:00

事例報告3 つくるでつながる作業療法

林 園子 (ファブラボ品川 ディレクター、一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会 代表理事、作業療法士)

3Dプリンタなどのデジタル工作機械を備えた「ファブラボ」は世界に1500箇所以上のネットワークをもつ市民に開かれた工房です。なかでも、品川区にある「ファブラボ品川」は、作業療法に特化したユニークな場所です。「つくる」を楽しみ、「つくる」でつながり、「つくる」で元気になる。現場にとって1つの大切な道具となり得るデジタルファブリケーションとケアの実践について学びます。



17:00~
17:30

ディスカッション